第17講　「脱亜入欧」の達成と帝国主義
PART2 朝鮮問題と日清戦争

Chapter 1　朝鮮問題

目標
朝鮮問題の経緯について知ろう。
国内世論の動向について知ろう。

1　壬午軍乱と甲申事変

閔妃

①［1　　　　　　　　］〔壬午事変〕（1882年）

親日的開化派である［2　　　　　］（国王**高宗**の妃）と，

親清的保守派である**大院君**（国王の父）の対立を背景とする。

A　経過

あ　政権を掌握する国王の外戚閔氏一族が日本人軍事顧問を招き軍制改革に着手

い　大院君一派が旧式軍隊と結び漢城で軍事クーデタを決行

※民衆も呼応して日本公使館を焼打ち。日本人軍事顧問らを殺害し，
政権を一時的に掌握。日本は軍隊を派遣，清も宗主権を主張して出兵し
大院君を逮捕して中国に連行したため，衝突は回避された。

B　結果→日朝間で済物浦条約を締結（1882年）

閔氏一族の朝鮮政府が謝罪，日本は賠償金・公使館守備兵駐留権を獲得した。

※しかし，清が外交顧問を常駐させるなど朝鮮政府に接近。
穏健的な開化派であった閔氏一族は親清的保守派へと政策を転換。

②［3　　　　　　　　］（1884年）

A　背景

急進的な開化派の**独立党**（**金玉均**ら）と保守派の事大党（閔氏一族）の対立。

B　経過

ベトナム支配をめぐる**清仏戦争**（1884～85年）勃発を契機に，

日本公使館守備兵の支援を受けた独立党がクーデタを決行。

※清軍の来援により鎮圧。日本公使館は焼き払われ，金玉均らは日本に亡命。

C　結果→日朝間で漢城条約を締結（1885年）

閔氏一族の朝鮮政府が謝罪，日本が賠償金を獲得した。

2 天津条約と国内世論の動向

①［4　　　　　　　　　　］（1885年）→日本全権**伊藤博文**，清国全権**李鴻章**

朝鮮における日清両国の武力衝突を避けるために締結。**日清両軍の朝鮮からの撤兵**，
日清両国の朝鮮への軍事顧問の派遣停止，
日清両国の朝鮮への出兵時における事前の相互予告義務を規定。

※２度の事変を経て日本の朝鮮に対する影響力は著しく減退。
一方で清の朝鮮進出は強化されたが日本の経済的進出も続き，
南下するロシア対策という共通点もあり清と協調した。

※清・朝鮮に対する日本の世論は急速に険悪化。日本は軍備を拡張，徴兵令を改正して
兵役免除規定をなくし，陸軍の参謀本部に加え海軍軍令部も設置した。

②国内世論の動向→中国・朝鮮の蔑視と国権的風潮が強まる

朝鮮における日本情勢の悪化，清仏戦争での清の敗北を受け，日本人のアジア観が変化。

※近代化において一歩先んじたという優越感もあり，民権派も国権論的傾向へ。

1882年　軍人勅諭→西周らが起草
※ 1878年の竹橋事件を契機に発布された軍人訓戒が基盤。
大元帥である天皇への忠節を強調し，軍人の政治関与を戒めた。

1885年　「［5　　　　　　　　］」（**福沢諭吉**創刊の新聞『**時事新報**』の社説）
※アジアの連帯を否定し，日本が欧米列強の一員になるべきこと
（＝「**脱亜入欧**」）を主張する国権論。清・朝鮮には武力で対処すべきと主張。
大阪事件（大井憲太郎ら旧自由党左派による朝鮮改革未遂）

1886年　長崎清国水兵暴行事件

1888年　国内の治安維持を主眼とする鎮台を**師団**に改め対外戦争に備える

1889年～**防穀令**事件
※朝鮮政府が凶作を理由に穀物輸出を禁止，日本商人が打撃を受けたことから，
日本政府は防穀令の廃止と禁輸中の損害賠償を請求。清に調停を依頼し
1893年にこれを実現したことから，朝鮮民衆の対日感情は極めて悪化。

1890年　第一議会における山県有朋首相の「主権線（国境）・利益線（朝鮮）」演説
※政府は軍備拡張予算を議会に提出。

まとめ
壬午軍乱・甲申事変を経て，日清間で天津条約が締結され協調を図った。
日本では中国・朝鮮の蔑視と国権論的風潮が強まった。

Chapter 2　日清戦争と三国干渉

目標
日清戦争で日本が圧勝したのはなぜだろう？
三国干渉が行われたのはなぜだろう？

1　日清戦争（1894〜95年）

①契機→〔1　　　　　　　　　　〕（**1894 年**５月）

全琫準を中心とする**東学**の信徒が，減税と排日を要求して朝鮮半島南部を占領。

鎮圧に失敗した閔妃政権は清に救援を要請。清は大軍を派遣する一方で，

天津条約の規定に従い日本に出兵を通知。

日本も公使館警備を名目に出兵を宣言，農民軍は急ぎ朝鮮政府と和解。

※到着した日本軍による日清共同の朝鮮内政改革提案を清が拒否，開戦は必至となる。

②開戦→直前に**日英通商航海条約**に調印

日本軍が朝鮮王宮を占領，７月 25 日の**豊島沖海戦**を経て８月１日に宣戦布告。

③経過→朝鮮には大院君の親日政権が成立

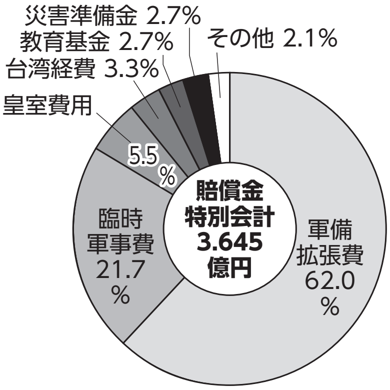
日本は大本営を東京に設置し，開戦後に広島に移転。

※陸軍は，平壌会戦→

大連・旅順占領→遼東半島完全占領。

海軍は，**黄海海戦**→山東半島の威海衛攻撃により

清の誇る**北洋艦隊**は全滅。



日清戦争賠償金の使途

2　下関条約と三国干渉

①〔2　　　　　　　　〕〔日清講和条約〕（**1895 年**４月）

A　調印→日本全権**伊藤博文首相・陸奥宗光外相**，清国全権〔3　　　　　　　〕

B　内容

あ　清は**朝鮮の独立**を承認（＝宗主権を放棄）

い　清は〔4　　　　　　　　〕及び**台湾・澎湖諸島**を日本に割譲

う　清は**賠償金２億両〔約３億 1000 万円〕**を日本に支払う

え　清は新たに沙市・重慶・蘇州・杭州の４港を開市・開港

C　影響→東アジアの華夷秩序が崩壊

あ　朝鮮市場を確保，大陸進出の第一歩を踏み出す

い　琉球帰属問題も日本の勝利により自然消滅

※**尖閣諸島**は，日清戦争中に国際法を根拠として日本領に編入していた。

う　日清修好条規に代わる**日清通商航海条約**（1896 年）の締結

※領事裁判権の承認・租界の設定など，日本優位の不平等条約。

え　賠償金により**金本位制**が確立（1897 年，貨幣法）

②〔5　　　　　　　〕(1895 年)

下関条約締結直後，〔6　　　　　　〕**・フランス・ドイツ**の三国が

「朝鮮の独立を有名無実に為す」ことを理由に，遼東半島の清への返還を日本に要求。

A　経過

拒否・受諾・列国会議の三者を迷ったが，還付金 3000 万両（約 4500 万円）を代償に，

やむなく受諾。朝鮮では大院君が追放され閔妃の親露政権が成立。

B　結果

国民の反ロシア意識が高揚。以後は「**臥薪嘗胆**」を標語に，

軍備拡張を基調とする挙国一致の戦後経営にあたることとなる。

C　〔7　　　　　〕**・澎湖諸島**の経営

1895 年　**台湾総督府**を設置し初代総督に海軍軍令部長の樺山資紀を任命

※一部の漢族や島民〔高砂族〔高山族〕〕の頑強な抵抗

（「台湾民主国」独立を図る）を武力で鎮圧。

総督には陸海軍の大将・中将を任命，軍政を実施。

1897 年　台湾総督府官制を制定

※軍政を廃止し民政を実施。

翌年以降は総督児玉源太郎・民政局長後藤新平のもとで，

土地調査事業が行われ，台湾銀行や台湾製糖会社が設立されるなど，

米・樟脳・砂糖を中心に産業の振興が図られた。

まとめ

日清戦争で日本は軍備・兵力・国論の統一など

多彩な要素において清を上回っていた。

ロシアは日本の大陸進出を警戒し，フランスとドイツを三国干渉に誘った。

第17講　PART 2　確認問題

1　壬午軍乱で親清的保守派と対立した親日的開化派はだれか。

①　大院君　　②　安重根
③　金玉均　　④　閔妃

2　甲申事変を起こした独立党の指導者はだれか。

①　袁世凱　　②　金玉均
③　孫文　　④　李鴻章

3　甲申事変後に日清間で結ばれた条約はどれか。

①　下関条約　　②　天津条約
③　南京条約　　④　北京条約

4　1885 年に脱亜論を発表したのはだれか。

①　森有礼　　②　中村正直
③　福沢諭吉　　④　中江兆民

5　日清戦争の直接の原因となった，朝鮮で起こった反乱はどれか。

①　甲申事変　　②　壬午事変
③　義和団の乱　　④　甲午農民戦争

6 日清戦争の講和条約の**全権でなかったの**はだれか。

① 伊藤博文　② 陸奥宗光
③ 袁世凱　④ 李鴻章

7 三国干渉で清に返還されたのはどこか。

① 抗州湾　② 澎湖諸島
③ 台湾　④ 遼東半島

8 日本が 1895 年に総督府を設置したのはどこか。

① 朝鮮　② 台湾
③ 満洲　④ 香港

第17講　PART2　確認問題 解答

1 解答：④　**閔妃**は国王**高宗**の妃で，親清的保守派である**大院君**（国王の父）と対立した。

2 解答：②　**甲申事変**は清軍の来援により鎮圧され，**金玉均**らは日本に亡命した。

3 解答：②　①の下関条約は日清戦争の講和条約。③の南京条約はアヘン戦争の講和条約。④の北京条約はアロー戦争の講和条約。

4 解答：③　**福沢諭吉**は，新聞『**時事新報**』において脱亜論を発表した。

5 解答：④　甲午農民戦争では，**東学**の信徒が，減税と排日を要求して朝鮮半島南部を占領した。

6 解答：③　日清戦争の講和条約は**下関条約**で，日本全権は伊藤博文首相と陸奥宗光外相，清国全権は**李鴻章**であった。

7 解答：④　ロシア，フランス，ドイツの三国は，「朝鮮の独立を有名無実に為す」ことを理由に，**遼東半島**の清への返還を日本に要求した。

8 解答：②　**台湾総督府**の初代総督には，海軍軍令部長の樺山資紀が任命された。